

平成十一年度論文題目

岩永 裕子 「更級日記」から菅原孝標女の人生観につ

いて考察する

牛島 道太 『石川啄木論』

小野 恭正 花田清輝論

甲斐下道恵 自由人としての西行

景山 恵介 夏目漱石「草枕」論

上戸 伸哉 志賀直哉論『暗夜行路』における諸問題

黄 干 娟 日本語の条件表現

― 順接条件を中心に ―

兒玉 齊 怪談牡丹燈籠

古波蛟唯之 川端康成論

― 川端康成の孤独根性について ―

近藤 裕司 萩原朔太郎論

正田 知宏 遠藤周作論

篠崎 竜也 松尾芭蕉

下地 農 川端康成論

― 作品背景を成す漢詩文 ―

新里 利浩 灰谷健次郎の文学に表現された教育観

鄭 恩 淑 日本語の条件表現

杉原 祐介 太宰治の文学について

麻生 亨 大分方言の社会言語学的研究

田畑 文子 灰谷文学における灰谷健次郎の教育観

富永 昭子 室町時代物語における継子譚の研究

富永 義宏 三島由紀夫 金閣寺における美

中村 静生 菊池寛論

― 菊池寛の封建社会に対する思想について ―

南島 明 『好色五人女』探求

― 描かれた女性像の把握と分析 ―

西村 穰 横光利一論

― 「蠅」と「日輪」について ―

野田 雄貴 熊本県北部域の社会言語学的研究

原口 智幸 鹿兒島方言の社会言語学的研究

― 現状と推移 ―

松田 裕子 狭野弟上娘子と中臣宅守の恋歌について

松岡 大蔵 熊本県北部方言の行方

丸子 清徳 大分豊前式アクセントをめぐる

道上健太郎 中島敦論

—「狼疾」の文学への取り組みについて—

宮井 広隆 井上ひさし文学論

村雨 康雄 三島由紀夫論

持永 大輔 詩人 井上靖の世界

森 朋彦 宮沢賢治の文学について

金 貞 昱 芥川龍之介論

金 成 垠 宮沢賢治について

仲間 正代 「花」から見る伊勢の歌

松尾 泰徳 『和泉式部日記』における和歌と散文の融

合による効果について

脇田 慎也 小野小町の和歌から見い出せる人物像につ

いて

〈学会〉

日時 十一月十七日(水)午後一時三〇分より

場所 三二号館五〇〇番大講義室

◇第二次オリエンテーション

日時 五月十三日

場所 中津散策

【研究発表】

・説話の背景

―真済の霊の背負ったもの― 佐藤 晋也

・菩提から煩惱へ

―近松世話物の展開― 平山 知恵

・谷崎潤一郎「刺青」

―清吉の宿願と娘の存在意義― 猪熊 絢

・類義語の変容過程

―「あたらし」と「あたらし」を中心に―

佐藤 美和

【講演】

富士谷成章の学説の形成について

佐田智明 先生

◇国文学特殊研究(比較文学Ⅱ) 国内研修  
関西(京都/奈良)